



Child hood

「力を合わせて 鬼退治」

99 ~ベビーホーム ちびっこの家~

2月3日は節分。邪気を払い、一年の無病息災を願う豆まきが各地で行われた。今回は、瀬戸越町にあるベビーホームちびっこの家(平山美津子園長)でも豆まきが行われた。

6か月から2歳児までの17人の園児たちが手作りの豆入れを首から下げ、鬼の絵に向かって「鬼は外、福は内」と元気に豆まきをしていると、突然鬼が登場。思いがけない鬼の姿に園児たちは一瞬戸惑い、そして一斉に泣き出した。部屋の隅に逃げる子もいれば、その場に座り込む子もいて、保育室は「阿鼻叫喚(あびきょうかん)」という表現がぴったりのパニック状態。鬼が一人一人を捕まえ抱き抱え、さらに泣き声も高くなり「いい子にするかー」という鬼の問いかけには声も出せず、ただただうなずくばかり。それでも中には泣きながら鬼めがけて豆を投げつける猛者も登場。それに勇気を得た園児たちが鬼に向かって力いっぱい豆を投げると、鬼は退散。園児たちにも笑顔が戻った。松井一真くん(3)は「鬼さんに勝った。鬼さんと仲良しになったよ」とニコニコ。最後は鬼と一緒に「はい、チーズ!」。

ベビーホーム ちびっこの家

佐世保市瀬戸越町1235 ☎0956-49-5347
見学随時可能。一時保育受け入れ可能。
フェイスブック「ちびっこの家」毎日更新中。

2017.3

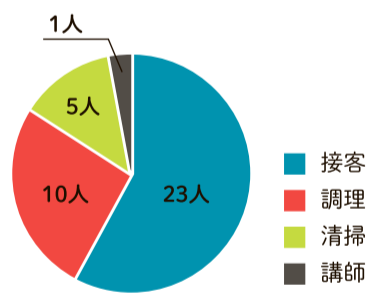
＼長崎短大生／の
よかとこ探しの旅

佐世保で働く留学生たち

～日本語は難しいけど接客は楽しい!～

たくさんの外国人が住む佐世保市。学問に励みながらアルバイトをしている留学生も多い。そこで長崎短期大学に通う留学生のアルバイト状況を調べてみた。

どのようなアルバイトをしていますか?



留学生53人(中国、韓国、台湾、ベトナム、ミャンマー、フィリピン、イタリア)を対象にアンケートをし、「どのようなアルバイトをしていますか」と質問した。その結果、留学生53人の74%に当たる39人がアルバイトをしていることが分かった。業種では接客業(佐世保バーガーショップ、飲食店、ホテルなど)が最も多く、59%だった。

接客業のアルバイト先の中で佐世保バーガーの店「ログキット」(矢野町)店長の山崎祐熙(やまさき・ゆうき)さん(26)とアルバイトの留学生アウン ミイツ ミヤツさん(国際コミュニケーション学科1年 ミャンマー出身)に話を聞いた。



ログキットの山崎祐熙店長と留学生のアウン ミイツ ミヤツさん(左) アウン ツヤ アウン ツバインクさん(中央)



Q1 仕事の様子は

山崎さん 留学生には最初、簡単な日本語で仕事内容を伝えている。仕事中はスタッフが日本語で交流をして日本語上達のサポートをしている。留学生は仕事熱心で英会話もできるため、外国人の接客を助けてもらっている。



Q2 アルバイトの感想は

アウン ミイツ ミヤツさん 接客で日本語が上達した。お客様の方言が理解しにくくて会話が大変なときもあるけど、日本人と外国人が家族のように会話ができて楽しい!

私たちが取材しました!!

山崎さんのような温かいスタッフがいるアルバイト先が増えれば佐世保はもっと留学生が働きやすい街になって、日本人と外国人との交流も活発になると思いました。

上野 日向美(19)、山田 天使(19)、田島 美奈代(19)、内田 美里(19)
いずれも長崎短期大学国際コミュニケーション学科1年

富永 雅也
白十字会理事長



コラム 病気を進行させない医療④

「認知症急増、新たなリスクに」

公民館で予防運動を

患者さんの病気を進行させないためこれまで紹介してきたような努力を大きく阻害するかもしれない疾患が近年、激増しています。「認知症」です。疫学研究で世界的に有名な九州大学第2内科の久山町研究によると、アルツハイマー型認知症患者さんが急増して2040年ごろの日本では1千万人に達し、ほぼ10人に1人が認知症に罹患(りかん)する恐れがあるとされています。医療・介護費用は激増し、国力を削いでいくのは明らかです。

認知症とは記憶力障害によって日常生活・社会生活に著しい障害をきたす状態をいいます。しかし、いきなり病状が進むことはむしろ少なく、軽度の認知機能の低下がみられ、物忘れは目立つものの会話は普通にでき、日常生活には支障がない軽度認知障害(MCI)の状態を経るのが普通です。

この状態がみられた場合、早期に担当の地域包括支援センターまたは認知症専門診療機関にご相談ください。MCIから認知症に至るまでには脳の萎縮や脳血流低下がない良性MCIの時期があり、この時期に適切な治療を加えれば健康状態に戻る可能性があります。

国立長寿医療研究センターの鈴木隆雄先生によると、MCI高齢者を2群に分け、有酸素運動を行いながら計算やしりとりなど頭を使って脳を刺激する運動(2重課題運動)を6か月間続行した群と、健康講座を受け続けた群を比較すると、前者に有意に脳の萎縮防止効果、記憶力の改善効果を確認したと報告しています。

そこで白十字会では、地域の公民館などサロンに高齢者が自主的に集い、認知症予防、閉じこもり防止、仲間づくり、生きがいづくりをするお手伝いをさせていただこうと考えています。有酸素運動をしながら脳を刺激する認知症予防を目的とした楽しい運動(コグニサイズ)を指導するインストラクターを派遣する計画を準備中です。

世界一の超高齢である日本人は、もう国に頼り過ぎず、自助・互助で乗り切らないと国の財政がもたないと思うからです。ただ、当法人の力だけでは限界があります。地域を支えるインストラクターを目指していただける方、共に市民のために立ち上がりませんか。

社会医療法人財団
白十字会